科目名	環境会計学　　Environmental Accounting						
科目担当者	森田 英二　　MORITA Eiji						
単位数	2	配当年次	3年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	会計学分野における応用編として、ここでは環境会計学に加え、国際会計論と公会計を取り上げる。 まず環境会計学においては、企業の環境問題に関する取り組みを貨幣的、物量的に評価する会計的手法について解説する。次に国際会計論では、国際的な企業の経済活動を測定して伝達する仕組みについて、主に国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards；IFRS）を対象として概観していく。最後に公会計では、公会計の概念と地方公共団体で導入されている会計モデルに焦点を当て、国際公会計基準との関係についても触れてみる。						
授業の到達目標	①会計学の中でも特殊な論点を学習することにより、応用レベルの知識を身に付ける。 ②新しいトピックスに関心を持ち、会計に対する視野を広げる。						

授業計画・内容		
	1	イントロダクション／会計学の応用編
	2	環境会計学①（環境経営と環境会計）
	3	環境会計学②（環境管理会計）
	4	環境会計学③（環境財務会計）
	5	環境会計学④（CSR との関係）
	6	国際会計論①（国際会計基準の潮流）
	7	国際会計論②（概念フレームワーク）
	8	国際会計③（IFRS の概要）
	9	国際会計論④（わが国および諸外国の対応）
	10	公会計①（官庁会計と公会計）
	11	公会計②（新地方公会計制度）
	12	公会計③（わが国の公会計基準）
	13	公会計④（公会計情報の活用）
	14	公会計⑤（国際公会計基準）
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	毎回、これまでに学習した簿記や会計学基礎理論を復習しておくこと（毎週 2 時間程度)。
授業外学修 (事後学修)	毎回、学習した範囲を見直して、疑問点は調べておくこと（毎週 2 時間程度）。

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験 小テスト	60% 40%	①、② ①、②

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	適宜資料を配付する。
参考文献	適宜指示する。
その他	＜望ましい受講生＞ 会計学の基礎知識は習得していること。 ＜事前または併行して受講してほしい科目＞ 「簿記論 I・II または上級簿記 A・B」「会計学 I・II」「原価計算論 I・II」「財務諸表論 A・B」「管理会計論 A・ B」「会計監査論 A・B」